

平成30年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 1 武蔵村山市立第八小学校

経営理念	人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校
------	-------------------------

【学校運営協議会・会長】 有馬 光彦	様式 4
学校運営協議会（学校評価分）	第1回 9月20日（木） 第2回 1月17日（木） 第3回 3月7日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価		最終評価	分析コメント (学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策 (来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価			
				目標値					達成度	評価	意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成度							
確かな学力の向上	《指導力の向上》 ◆(中期) 学習意欲、思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期) 知識・技能の確実な定着	◇ 授業改善推進プランに基づき、授業の中で「学習意欲、思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇ 東京ベーシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。 ◇ 希望者を募り、「思考力・判断力・表現力」に特化して養成する	○(保護者アンケート) 肯定的評価の割合 ○第5学年都調査と類似問題の結果の比較 ○ベーシック・ドリル診断テストCの結果	80	76.9	B	《保護者アンケート》肯定的評価の割合…84.7% 【第5学年都調査(7月)と類似問題(2月)の結果の比較】 【ベーシック・ドリル診断テストCの平均正答率】 2年…78.2% 3年…48.8% 4年…72.6% 5年…54.6% 6年…58.9% 《数学的な考え方》 (7月)22.7%→(2月)47.8% (技能) (7月)51.7%→(2月)68.0% (知識・理解) (7月)24.2%→(2月)50.8% (総正答率) (7月)39.6%→(2月)57.8%	学年ごとの正答分布と誤答の傾向から正答に向かうための学習意欲、思考力、技能、知識等を身に付けさせる具体的な手だての共通理解を図る。 【自己評価から】 ・毎時間の授業のねらいを明確にする。 ・研修に参加したり、研究授業を参観したりして、指導力の向上を図る。	◇ 学校運営協議会は、学校と地域の連携（コミュニティスクールの本質）を目的として「人材バンク」の設立を目指す。 ◇ 「夏の八小塾」の主催を継続する（主体性をもった児童の学力向上の取組）。 ◇ 昨年度立ち上げた「お手伝いクラブ」の取組を充実する（児童の学力向上の支援）	3		
	《地域との連携》 ◆(中期) 保護者・教育支援ボランティア(地域)を活用した共同的活動の推進	◇ 「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇ 「かけ算九九」(基礎学力の定着)…11月、3学期末 ◇ 「八小なるほど塾」(基礎学力の定着)…2学期に実施	○「伸びゆく子」の評価	80	100	A	【「伸びゆく子」の評価】 《算数》《3学期 第1学年及び第2学年(全児童)》「技能」及び「知識・理解」における「概ね満足」以上の成績を収めた人数の割合 → 【自己評価から】 ●知識・技能の定着が100%ではない。 ●「楽しい」に重点を置きすぎず、「自分でできた」と思えるような授業展開を増やす。 《第1学年》 技能…97.6% 知識・理解…95.9% 《第2学年》 技能…82.5% 知識・理解…89.5%	【自己評価から】 ・宿題は答え合わせを自分でできるような形式にして、すぐに確認できるようにする。 ・かけ算九九のテストを3学期まで行う。 ・なるほど塾に本当に支援が必要な児童が通えるように、家庭への勧め方を考える。 ・個別指導を充実させるために、空いた時間や習熟タイムを有効に活用する。	※主な取組 ・体力テストの補助 ・持久走大会や地域フィールドワークの見守り ・「八小なるほど塾」の採点 等	3		
	《家庭教育力の向上》 ◆(中期) 家庭での学習習慣の定着	◇ 家庭学習の意味を保護者と共通理解し、「学年×10分間」の家庭学習を行う。(保護者会で最低1回は説明する。学校だよりに掲載する。)	○(児童アンケート) 肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート) 肯定的評価の割合	80	102	A	《児童アンケート》肯定的評価の割合 ・宿題を毎回行い、提出している…87.4% ・学年×10分以上の家庭学習をしている…63.9% 《保護者アンケート》肯定的評価の割合…84.6% 【自己評価から】 ○毎日国語と算数の宿題を出し、2学期末には全員が提出できた。 ●学年×10分間も、学力の低い児童には厳しい。	【自己評価から】 ・宿題は毎日の取組のため、一定の量+αで準備する。 ・自主的な学習の進め方を示し、主体的に取り組めるように声掛ける。 ・学力向上に結び付いているのか検証する。 ・特別支援教室に通っている児童には、当該児童に応じた宿題を用意する。		3		
豊かな心の育成	◆(中期) いじめ撲滅への取組	◇ 週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇ 月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○「ふれあい月間」の結果 ○(自己評価) 肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート) 肯定的評価の割合	80	108	A	《ふれあい月間》いじめ認知件数(H31.3.7現在) ・一定の解決件数20件/認知件数20件 【自己評価から】 ○認知した際にはその場で指導し、担任に報告した。 ○専科内で情報を共有できた。 ○ソーシャルスキルトレーニングを通して、自分の言動を振り返らせた。 ●ふれあい月間で初めて把握した案件があった。	【自己評価から】 ・現在のところは大きな事案を確認していない。引き続き子供たちの様子を見ていく。 ・ふれあい月間で児童の心の中や悩みを詳しく聞く。 ・いじめについての危険性を、繰り返し指導する。 ●保護者アンケートの提出を促し、評価を見取れるようにする。 ・在籍学級の担任と情報を共有し、未然に防ぐ。	◇ いじめに関して、学校が状況を把握して一定の解決に至っていることに安心している。継続した見守りを望む。 ◇ 下校中の児童に挨拶すると、きちんと返してくるという話も聞く。挨拶を中心に、礼儀正しく行動し、規範意識をもって生きるこのできる児童の育成の継続を期待する。特に、挨拶の根底にある他者を敬ったり他者に感謝したりする心の育成を、重点に置いてほしい。(継続) ◇ ボランティアに参加した際(学習発表会時の市民会館との行き帰りや、持久走大会時のコースの見守り)、本校の子供たちの挨拶や、担任と子供たちの揃った挨拶・お礼の言葉に温かい気持ちが伝わってくる。(継続) ◇ 教育課程特例校として3年間「徳育科」が延長することから、後退することなく心の教育に力を注いでほしい。	4		
	◆(中期) 特別支援を要する児童への対応	◇ 特別支援コーディネーターを中心に学校(担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等)と保護者、外部機関(教育相談、医療、等)で適切な支援の共通理解を図る。 ◇ 月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価) 肯定的評価の割合	80	101	A	【自己評価から】 ○気になる児童は、養護教諭、学年主任と積極的に連携を取り、当該児童の様子も観察して保護者に連絡している。 ●通級・巡回相談心理士と連携し、必要な支援について探っている。 ●保護者への勧め方が難しかった。	【自己評価から】 ・校内支援委員会で不登校傾向の児童への対応が話し合われたので、来年度も継続したい。 ・中学進学を見据えた支援をする。 ・支援が必要な児童は、特別支援校内委員会で話し合ってから通級か固定か否かを決めていきたい。 ・課題に対して、誰がいつまでに何をするか、学年は学校はどうするかという結論を毎回確認する。		4		
	◆(中期) 明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇ 「挨拶の励行」を推進する。(随時)	○(自己評価) 児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート) 肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート) 肯定的評価の割合	80	96.5	A	《児童アンケート》肯定的評価の割合…84.8% 《保護者アンケート》肯定的評価の割合…75.7% 【自己評価から】 ○始業の際に、先言後礼を意識付けし、良いところを積極的に評価した。 ●始業終業、朝の挨拶等はできているが、普段人とすれ違う時の挨拶は全然できていない。	【自己評価から】 ・挨拶の授業を全学級で行う。 ・朝、教室で児童を出迎える。 ・見本となるように、教員からすすんで元気な挨拶をする。 ・廊下ですれ違う人への挨拶について声掛けをし、より意識させる。 ・通級児童にも、挨拶指導を徹底していく。		4		
	◆(短期) 話を一度で聞き取る子供の育成	◇ 「教室の中で話しているのは一人」の「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価) 肯定的評価の割合	80	88.3	A	《児童アンケート》肯定的評価の割合…84.4% 《保護者アンケート》肯定的評価の割合…86.1% 【自己評価から】 ○最後まで聞き、話し手が誰かを意識させることを声掛けした。 ●集会や学級でも、切り替えができて話を聞く児童が100%ではない。	【自己評価から】 ・他の先生方の指導から学び、改善していく。 ・様々な方法を通して「話をしているのは一人」を体染み付けさせる。 ・人が話しているときは、黙って聞くことを繰り返し伝える。 ・個別学習で聞く姿勢作りをする。聞き取りの力を伸ばす。話を聞いているときには褒める。		3		
健やかな体の育成	◆(中期) 人権感覚や思いやりの心の育成	◇ 【徳育科】指導法、評価方法、指導資料の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。		80	97.3	A	《児童アンケート》肯定的評価の割合…87.1% 《保護者アンケート》肯定的評価の割合…87.5% 【自己評価から】 ○徳育科の指導を通して、相手を思いやるということがどういことなのかを考える児童が増えている。 ●指導していることが、実践として表れないことがある。	【自己評価から】 ・学んだことができるように、繰り返し指導していく。 ・友達に対して、優しい言葉掛けができるように声掛けをしていく。 ・指導を継続し、自我関与する場面をより実践に近いものにしていく。 ・人を傷つける言動は厳しく指導する。		4		
	◆(短期) 「早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き」の徹底	◇ 2学期に実施する生活リズムカードにより意識付ける。 ◇ 各学年の目標値を明確に示し、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート) 肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート) 肯定的評価の割合	80	65.6	B	《児童アンケート》肯定的評価の割合…87.6% 《生活リズム》理想的な就寝…43.1% 【自己評価から】 ○生活リズムチェック表を基に一人一人に声掛けし、改善が見られた。 ●児童・保護者へ呼び掛けはしているものの、実生活に結び付きにくい。	【自己評価から】 ・遅刻が続いたときなど、気になったときは意識的に声を掛けたり、様子を見たりする。 ・生活リズムチェック表で気になる児童には、直接話を聞く。 ・歯磨きや朝ごはんについては、家庭の協力が必要なので、家庭に促す。	◇ 生活リズムについては、保護者への啓発をより積極的に行ってほしい。(継続) ◇ 新体力テストにおいては測定補助、持久走大会においてはコースの安全確保として、支援を続けている。そうした中で、児童の体力に関する実態を感じ、学校と地域とが協働で増進を図る手だてを探りたい。(継続)	3		
	◆(中期) 運動好きの児童の育成	◇ なわとび集会、マラソン週間、学級全員遊びの機会を充実させる。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート) 肯定的評価の割合	80	65	B	《新体力テストの結果(全国比)》 握力 ……6/12 上体起こし ……3/12 ×6学年=12グループ ×6学年=12グループ ・全国平均を上回ったグループ数→ 《児童アンケート》肯定的評価の割合…86.7% 20mシャトルラン…0/12 50m走 ……1/12 立ち幅とび ……1/12 ソフトボール投げ…0/12	【自己評価から】 ・引き続き、外遊びや運動の機会を多く取る。 ・なわとびカードやマラソンカードの活用を充実させる。 ・実技面が上達するような授業づくりを行う。 ・運動が苦手な児童が、何か一つでも「できた」と思えるような授業づくりをしていく。		3		

平成30年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 1 武蔵村山市立第八小学校

経営理念	人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校
------	-------------------------

【学校運営協議会・会長】 有馬光彦	様式4
学校運営協議会(学校評価分) 第1回 9月20日(木) 第2回 1月17日(木) 第3回 3月7日(木)	

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価		最終評価	分析コメント (学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策 (来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価			
				目標値					達成度	評価	意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値							
オリンピック・パラリンピック教育の推進	◇ オリンピック・パラリンピック年間指導計画を確実に実行する。	◇ オリンピック・パラリンピック年間指導計画を確実に実行する。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80	69.3	B	【自己評価から】 ○総合的な学習の時間に福祉と関連付けて指導ができた。 ●オリ・パラに関連する話は、ほとんどできなかった。 ●児童の中に、オリ・パラへの気持ちはあまり育てられていない。	【自己評価から】 ・目的を共有する。 ・自分自身のオリ・パラへの知識を増やし、いろいろなところからアプローチできるようにする。 ・学期が始まる前に学年で計画を確認し、取組を共有する。	◇ 今年度、アテネオリンピック体操団体金メダリスト中野大輔氏を招聘した活動は有意義だった。指導者側の意識改善を推し進めながら、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を更に高めてほしい。	2		
				48.9							61.9	
防災意識の向上	◆(中期) 災害や犯罪に対応する取組	◇ 年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	114	A	【自己評価から】 《児童アンケート》肯定的評価の割合…94.9% 《保護者アンケート》肯定的評価の割合…87.1% 【自己評価から】 ○計画に基づき実践を想定してしっかり実施できた。 ○火災、地震などの自然災害に加え、不審者侵入の訓練に児童が真剣に取り組んでいると感じられる。 ○総合的な学習の時間で八小防災マップを作成し、課題意識をもたせることができた。	【自己評価から】 ・訓練のための訓練ではなく、災害に備えた訓練という意識を広げる。 ・休み時間の避難の仕方について、年度当初に確認する。 ・警察などとの連絡が十分に取れ、次年度の予約が必要などころはよく確認しておく。 ・全体の動きを事前に把握しておく。	◇ 児童の安心・安全を守るための取組を総合的に発展させたい。 ・「登校時の児童の見守り」「交通量調査」…地域の自治会 ・「通学路点検」…本市教育委員会 ・「不審者情報の集約」…本運営協議会 ・「生活安全マップ」「交通安全マップ」「災害安全マップ」…本校児童の学習	3		
				89							93	
教師としての質の向上	◆(中期) 「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇ 全教員が「八小授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80	92.5	A	【自己評価から】 ○考えさせる授業展開を実践しようとしている。 ○授業のねらいを達成するために、発想のヒントを考える時間を十分設けることができた。 ●低学年では教えることや反復練習が多くなりがち。	【自己評価から】 ・少しずつ基礎基本と問題解決の過程の比率を増やしていくように心掛ける。 ・国語科や社会科でも、問題解決型の授業を提案していく。 ・授業の振り返りでは児童の言葉でまとめたノートに書いたりする時間もじっくりとる。	◇ 学校運営協議会は、実際には学校の教育活動を支援する側に立つことが多い。児童の健全育成の主たる担い手は、学校の教職員である。その責務を十分に自覚し、日々の児童の健全育成に努めてもらいたい。(継続)	3		
				71.7							76.2	
	◆(中期) 教師の専門性を生かし、一人一人の指導力向上に努めること	◇ 全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80	103	A	【自己評価から】 ○事前の助言を得て、指導案作成と授業研究ができた。 ○他の教員から専門的な技術を学ぶことができています。 ●授業技術・専門的な見地からの評価が得られない。	【自己評価から】 ・自分から積極的に授業を公開したり研究授業に参加したりして、指導力向上を目指す。 ・今後も謙虚な姿勢を忘れず、研究に取り組み、自身の向上を目指す。 ・一人一研究以外の研究授業スタイルについても学んでいく。	◇ 学校運営協議会は、教職員の児童に関わる時間の確保や指導に関わる支援が十分に行えるよう、環境の整備や協議会の関わり方を工夫し、教職員の負担の軽減を図るよう努力する。(継続)	3		
				81.5							83	
◆(中期) 児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇ 教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇ 学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80	98	A	【自己評価から】 ①地域主催行事の参加・地域との関わり ○ハーモニークラブ…地域行事への参加 ○Gサポーター…保護者や地域との関わり ○PTA・学校運営協議会・青少年対・教育委員会 等 ●土日の参加 ②保護者への働きかけ ○不登校傾向の児童保護者への電話連絡 ○通級ファイルを通じた家庭との連絡	【自己評価から】 ・児童の安全対策のための活動により積極的に関わっていく。 ・地域行事やPTA行事にもっと積極的に参加していく。	◇ 今年度から始まった学校徴収金の口座引き落としについては、管理・運営が簡便で明確になったが、今後も推移を見守りたい。	4			
			78.3							78		
校内組織の再構築	《私費管理》 ◆(中期) 研究費の執行に関わる事務と執行状況の管理	◇ 管理システムを再構築し、確実に運用する(担任、都事務支援員、管理職、等の関わり方の明確化)。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80	88	A	【自己評価から】 ○教材費等の集金について、事務室と連携が取れている。	【自己評価から】 ・集金について、事務室に事前に書類を渡すようにする。	◇ 今年度から始まった学校徴収金の口座引き落としについては、管理・運営が簡便で明確になったが、今後も推移を見守りたい。	3		
				65.9							75	
	《文書管理》 ◆(中期) 転出入事務のシステム化と運用	◇ 管理システムを再構築し、確実に運用する(担任、養護教諭、転出入担当、都事務支援員、市事務嘱託員、管理職、等の関わり方の明確化)。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80	89	A	【自己評価から】 ○要録等の文書を適切に管理できた。	【自己評価から】 ・転出入の書類の進め方について理解を深める。	◇ 今年度から始まった学校徴収金の口座引き落としについては、管理・運営が簡便で明確になったが、今後も推移を見守りたい。	3		
67.4				75								
平均値									3.24			

【達成度】 = [達成値] / [目標値]  
 【評価】 A : 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定      B : 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施      C : 5割未満→目標の見直し